

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500056		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホーム ふれあい檀原		
所在地	奈良県檀原市古川町 29 - 7		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで周囲は田園風景の中に立地しています。毎日小鳥のさえずりを聞きながらゆったりと生活しておられます。裏庭には畑がありこの夏も野菜をたくさん収穫することが出来ました。フロア・トイレ・浴室は共用ですが専門性を高める研修を受けた職員がプライバシー保護を考え支援しています。日々の楽しみとして季節を感じられる外出行事、ホーム内では運動会・音楽会など行っています。食事は入居者様のご希望を聞いた上で献立作成を行っています。

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

広々とした大和平野南部に位置し、畝傍山が目の前にある自然豊かな環境に恵まれた新設の事業所である。この環境を生かして、毎日30分の散歩と外気浴で利用者に楽しんでもらっている。建屋中央にスタッフルームを配置しているため両ユニットの居間を見通すことができ、利用者の動きや様子を伺うことができる。利用者の尊厳を守りつつ、生き甲斐を見つけ、その人らしく、暮らしていけるように支援している。地域とのつながりを大切に、常に関わりを持っていけるように配慮している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念に基づいて、職員全員がそれに基づいた関わりが出来るよう一人一人努力しています。	法人の理念とともに、事業所独自の理念を掲げ、日々唱和し職員間で共有しサービスの向上に生かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	開所3年が経過し、地域の方には知って頂いているが、交流についてはまだ出来ていません。今後は地域の祭りや行事に呼んで頂けるように働きかけを行います。	自治会に加入し年2回のクリーンキャンペーンなどに参加している。お盆の行事に招待されたり、日課の毎日の散歩で近在の人とは馴染みとなっている。園芸をともにしたり、ボランティアの訪問を受けて地域との関わりを大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望だけでなく最近では相談に来られる時があります、何を求めておられるか要望をお聞きし、相談だけなのか、支援が必要なのかを正確に判断しアドバイスすることを心掛けています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多方面の皆様に参加頂いています。色々な意見を伺い改善しています。	運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、市職員又は地域包括支援センター職員、訪問看護事業所職員、介護相談員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。事業や行事の報告、利用者の近況や家族会の報告、今後の計画について出席者の意見を伺っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出の時などに教えて頂いたり、アドバイスを頂いています。運営推進会議にも出席いただき意見を頂戴しています。	行政の担当者とは通達等の連絡だけでなく必要書類の提出等でアドバイスをいただいている。事故報告や会議録の持参も含め月に2・3回は市役所に出向き関係強化に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の研修以後も身体拘束について研修で学べる機会があります。ホーム内でも入職時、理解できるような研修を行っています。職員の習得状況により、繰り返し研修しています。	身体拘束について研修で理解を深め、実践では身体拘束しないケアを継続している。玄関の施錠は夜間のみとし、外出願望のある方には落ち着いてもらえるよう職員が配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については入職時より研修でくり返し学んでいます。ホーム内では職員同士が介護についてお互いに指摘しながら行っています。ホーム内で発生しないよう職員全員が注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように努めている。	今後制度を利用される入居者様が増加されると考えます。意味や制度について職員教育していく必要があると考えます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に時間を多く取り、契約書を読み合わせしています。変更がある場合文書にて通知し、署名を頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	主に家族会で意見を伺っていますが、参加できない家族様には面会時や連絡時に意見や要望を伺い職員会議で決定し、家族様、利用者様に満足頂けるよう努力しています。	家族の意見は面会時に伺うことが多い。家族会で意見ができることもある。最近では食事のメニューを知らせて欲しいとの要望があった。本人の希望は職員との日々の関わりのなかで汲み取っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で提案や意見を出し合い、良い方向に職員全員で向かえるように毎月、機会を作っています。	年3回の個別面談を行い管理者と職員間で良好な職場関係を構築している。日々の勤務や月1回の職員会議で職員の意見を聞いている。	個別面談や職員会議の場で、各職員がより一層積極的に意見や提案をだせる環境を整えることにより、更なるサービスの質の向上への反映や、職員の育成にもつながることと期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ふれあいの里では、組織全体で年3回人事考課制度を用いた個別評価を行っています。面接時には管理職、職員相互で勤務状況や働くことについての問題点を確認をし、納得して働ける環境作りをしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ふれあいの里全体のステップアップ研修に参加できるよう勤務の調整を行っている。入職時はグループホーム内で職員個々の習得状況に合わせた研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	医療法人健和会でグループホームが5カ所あり、会議や研修などで交流が図れているが、地域内にあるグループホームとの繋がりが乏しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日職員一人一人が声を掛け、一人で過ごすことが少なくなり、話が出来る状況を作っています。その中で入居者様が何が必要かをくみ取る努力をしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の前に、本人や周囲の状況、家族様が思っておられること、話したいことを話せる状況を作り、思いを聞いています。家族様が思いをはき出すことで気持ちが少しでも楽になることで、入居者様も落ち着かれると思います。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面接時に、グループホームで暮らせるかを、家族様やケアマネジャーを交えて話を聞き、判断しています。グループホームが無理な場合は他のサービス利用を案内いたします。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家族という考え方で出発しています。職員、入居者様がそれぞれ家族の一員として、関係づくりを行っています。入居者様の中には役割を理解して頂いて入居者様をまとめる役割をされる方がおられます。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況を、面会時や体調の変化があった時などにこまめに連絡をし報告しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は制限していません。面会の申し出があればプライバシーを重視する必要がありますので、キーパーソンに許可を得た上で面会をお願いしています。	外出、外泊の支援を積極的に行っている。お盆や正月に半分くらいの方が外泊される。利用者に行きたい所の希望を聞いて外出したこともある。来訪者については、家族に確認してから面会していただく場合がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の衝突は少しはありますが、職員が間に入り当事者が不快な気持ちを引きずらないよう、言葉掛けや趣味の方に目を向ける努力をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や死亡時に契約は終了するが、入院された場合次の転院先や施設などの相談を受けている。他施設へ入所された場合でも、家族様の了解を得て面会に伺うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入居者様の思いを把握しようと職員それぞれが、話しかけをすること、聞くことを先ず行っています。ホームでは困難な場合家族様に相談し希望に添えるよう努力しています。	利用開始時に本人・家族と面談し思いや意向を聞き取っている。その後のかかわりの中で得られた情報を確実に介護計画へ反映させるため、アセスメントシートは1年ごとに作り直している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や背景を伺うが、その方の全部を把握することはできないため、入居後時間の許す限り話しかけ情報をとり、職員それぞれの持つ情報を共有する努力をしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のカンファレンスの時間に職員間で情報を出し合い共有できるようにしている。その日の入居者様の様子や言葉などから状態の観察を行っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に今まで家で使っておられた物や本人様の気に入った物などを持ってきて頂いています。食事も今まで使っていたお茶碗で召し上がる事により住み慣れた空間を少しでも提供できるように家族様にお願いしています。	ケアプラン作成者2人がケース会議録をもとに3ヶ月に1度介護計画を見直し6ヶ月毎に更新している。趣味、特技や生活歴を基に、日々変化していく希望や意向も考慮し介護計画を立てている。	介護計画作成時に、利用者や家族にも参加していただき意見や希望を聴き、ADLの観点に加え利用者がより生き生きと楽しく目標を持って暮せる介護計画の作成が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受け持ち制度にし、職員が入居者様の生活を考えられるようにしています。又、受け持ちでなくても気づいた事は、毎日のカンファレンスの中で話し合いより良い介護を目指しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者御家族様全員ではないが、家族会で話し合われたこと、面会時にお聞きしたことを、断らないを思いながらサービスを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、園芸・音楽・セラピードッグ・会話などをして頂くボランティアさんに来ていただき、毎日の生活の充実を図っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様ほとんどの方は近くの医院に受診介助して、本人様の訴えや心配な症状を聞いていただき、全面的に医学管理をお願いしています。その他の入居者様の受診介助は家族様がされますが、タクシーの手配などはホームで行っています。	かかりつけ医に利用者各自が定期的に受診しており管理者が付き添っている。週1回歯科医が摂食嚥下等の指導に来ている。看護師も週1回来所し健康状態を把握している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で1週間に1回訪問看護師が訪問、バイタルチェックで体調管理や服薬管理を行っています。一人一人についてアドバイスを頂いています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の場合は救急受入病院にお願いしていますが、長期入院になる場合、母体である奈良東病院で、本人様の最も症状に合う病棟に入院していただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師や訪問看護に確認し、看取りについて協力して頂くことになってはいますが、今の時点ではまだその段階にはなく、今後ホームとして出来ることを明確にし家族様に発信していきます。	利用者が重度化した時の対応として、入浴が困難になった時点をめどに、継続利用か特養への申し込み、あるいは法人内の他施設への紹介などを相談する約束を利用開始時にしており、利用者や家族は安心している。基本的には看取りをする方針で終末ケアの職員研修を計画している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故については毎月職員の勉強会で研修しています。研修に参加できない職員はレポート提出になっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何年2回 消火訓練・避難訓練・通報訓練について防災訓練を行っています。また、毎日2回電気・ガスの安全点検を行っています。	空き地が多く、平屋であることなど災害に対し安全な環境に恵まれている。玄関以外にも避難路が確保できている。年2回利用者も参加し避難訓練を行っている。緊急通報装置、スプリンクラーを完備している。自治会との協力体制についての取組みが進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
dai					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助を行う上で、不快に思われないような言葉掛けを心掛けています。入居時に生活歴を伺い、	大きな声を出さず丁寧な声掛けを心掛け、職員は利用者の思いに寄り添い個性と尊厳を守るべくプライバシーとプライドに配慮した支援を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分のことを話したり、したいことを言えない入居者様に、言葉を引き出す言葉掛けや傾聴をし、本人の希望される生活を提供できるよう職員間で情報の共有をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中で食事時間だけは決まっていますが、他のことは自由にして頂いています。入居者様の嫌いなアクティビティの時は無理に誘うことはせず、ご自分の好きなこと、納得できるようにして頂いています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理容師さんにカットをお願いしていて、パーマや毛染めを希望されたら家族様に依頼しています。ヘアスタイルは理容師さんと本人で決められますが職員がアドバイスするときもあります。模様替えは家族様にお願いしていますが、必要と感じたときは職員がお願いしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニュー作成、食材の注文、調理全てを行っています。入居者様の好きな物食べたい物を伺いなるべく皆様のご希望に添うようメニュー作成しています。入居者さまの中には食材を切ったり準備が出来る方がおられます。その能力を低下させないように、危険でないことはして頂いています。	利用者の希望を聞いてメニューを作成し、食材調達から調理まで職員が現場で行っている。検食も利用者と会話を楽しみながら行っている。目先を変えて、ホットプレートでお好み焼きをしたり、お誕生日会を楽しんでいる。月二回おやつ作りも行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は主治医に相談し量を決定しています。水分量確保のためフロアに座られたらお茶を提供しています。体重測定は月2回行い診察時に報告し体調管理を行っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨けない入居者様、義歯を使用されている方は職員が毎食後管理しています。異常があれば訪問歯科診療に診察を依頼したり、相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票に記載し、パターンを把握しその人に合わせた介助方法をケアプランに生かし低めます。基本はトイレで排泄して頂くよう援助しています。	排泄について利用者の多くは自立しているが、必要な方にはさりげなく声掛けを行なっている。便秘にならないよう使用後は特に排便の有無を確認後チェック票に記載しパターンの把握を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維のある物を中心に、色々な食材を使用し、作成しています。毎日朝食時ヨーグルト、10時に牛乳を提供しています。毎日の散歩だけでなく、フロアで過ごしておられたら、体操・歌など少しでも体を動かして頂いています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はユニット毎に設定している。入浴の順序は不公平が出ないように毎回順番を記録し、不満を訴える入居者様には記録を見て納得して頂く。入浴の曜日は職員の都合上全員の希望に添う事は出来ないが、汚染など必要時には実施しています。	入浴は週3回、ユニットごとに午前・午後に分けて利用していただいている。月に1度は入浴剤やハーブを入れて楽しんでいただいている。毎回、入浴の順番を変えたり温度の希望を聞いたりしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響しない程度に日中休んでいただいています。又入居者様に合わせた温度管理をしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クスのファイルを作成し、作用、副作用、用法、用量が理解できるようにしている。一人々手渡しや見守りで、服薬管理をしている。週1回訪問看護師が体調管理を行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の体操・散歩・行事にはお誘いしますが、居室で趣味の作品作りなどされる方には、希望をお聞きし、必要なことは援助しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天でない限り30分以上の散歩を毎日行っています。ドライブや外食に行ったり、毎月初詣・お花見・お花鑑賞・お寺へお参り等外出行事を行っています。	事業所は大和平野南部に立地し、畝傍山を見上げられる恵まれた自然環境の中、毎日約30分、近くの御神木の所まで出掛け、祠に手を合わせ散歩を楽しんでいる。ホーム外行事として毎月、花見や公園、資料館などに外出し利用者に楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の危険性があるので、入居時に預かることは出来ないと言明している。必要時ホームが立替えを行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、自由に各居室で使用されています。かけ方が分からない入居者様は職員が介助しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中全部を入居者様と職員と一緒に掃除をし、清潔を心掛けています。離床後の各居室を含めホーム内を換気しています。壁には季節感のある物を入居者様に作成して頂き貼って季節を感じられる様にしています。	リビングは掃きだしの大きなガラス窓で、目の前に畝傍山・季節感を感じさせる田園風景・走り行く2両電車でまるで一幅の絵のような景色が楽しめる。心地よく配置された家具と開放感あふれる間取りで、職員と利用者との会話も弾んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はフロアで過ごされる入居者様が多いですが、それぞれ皆様は、ご自分の好きなこと、したいことをされ、居室がいい方は居室に戻られます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで家で使っておられた物や本人様の気に入った物などを持ってきて頂いています。食事も今まで使っていたお茶碗で召し上がる事により住み慣れた空間を少しでも提供できるように家族様にお願いしています。	居室は大きな窓で明るくエアコンや木製ロッカーが備え付けてある。利用者の使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでこれまでの生活が継続できるように支援しており、位牌を置いている利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	筋力低下の予防をしながら、自由に過ごしていただいています。打撲など危険がある時は、各角を保護しています。		